

文化施設一覧表

グダニスク歴史博物館
www.mhmg.gda.pl
主体となった街の市庁舎
Długa通り47, (電話+48 58 767 91 00)
琥珀博物館
Targ Węglowy,
(電話+48 58 301 47 33 内線123)
アルトゥスの屋敷
Długi Targ通り43/44,
(電話+48 58 767 91 80)
民家内装博物館 ウハゲンの家、
Długa通り12,
(電話+48 58 301 23 71)
塔時計博物館
聖カタリナ教会の塔、wielkie Młyny通り、
(電話+48 58 305 64 92)
グダニスク・スポーツ観光博物館
Baszta na Zamurzu,
Przedmurze通り2,
(電話+48 58 305 76 61)
グダニスクのポーランド郵便博物館
Obroncow Poczty Polskiej通り1/2,
(電話+48 58 301 76 11)

国立博物館
www.muzeum.narodowe.gda.pl
古代美術局 本館、
Torunska通り1,
(電話+48 58 301 70 61)
現代美術局 大修道院長宮殿、オリバ、
Cystersow 通り18,
(電話+48 58 552 12 71)
民族局 大修道院長の麦倉庫、オリバ、
Cystersow通り19,
(電話+48 58 552 41 39)

中央海運博物館
www.cmm.pl
麦倉庫島、
Olowianka通り9-13,
(電話+48 58 301 86 11-12)
ジュラフ、
Szeroka通り67/68,
(電話+48 58 301 53 11)

考古学博物館
www.archeologia.pl
Mariacka通り25/26,
(電話+48 58 301 50 31-32)

連帯博物館・「自由への道」展
www.fcs.org.pl
造船所敷地内、Doki通り1,
(電話+48 58 769 29 20)

グダニスク灯台・新港
www.latarnia.gda.pl
Przemysłowa通り6a,
(電話/ファックス+48 58 760 16 42)

国立バルトオペラ
www.operabaltycka.pl
Zwyciestwa大通り15,
(電話+48 58 341 05 63)

国立バルトフィルハーモニー
www.filharmonia.gda.pl
Olowianka通り1,
(電話+48 58 305 20 40)

国立「ピブジェジェ」劇場
www.teatrwybrzeze.pl
Targ Węglowy通り1,
(電話+48 58 301 70 21 内線31)

市立人形劇場「ミニチュア」
Gdansk-Wrzeszcz,
Grunwaldzka大通り16,
(電話+48 58 341 94 83)

レシニ劇場
Gdansk-Wrzeszcz, Jaskowa Dolina通り
、グテンベルグの森の近く

バルト海文化センター・グダニスク
www.nck.org.pl
旧庁舎内、Korzenna通り33/35,
(電話+48 58 301 10 51)

現代アートセンター「ワジニア」
www.laznia.pl
Jaskolcza通り1,
(電話+48 58 305 26 80)

「ジャク」クラブ
www.klubzak.com.pl
Gdansk-Wrzeszcz,
Grunwaldzka通り195/197,
(電話+48 58 345 15 90)

観光案内
“ボモジェ・グダニスキエ”観光協会、
Heweliusza通り27,
(電話+48 58 301 43 55),
e-mail: itgdansk@op.pl
PTTKグダニスク支部、
Długa通り45,
(電話+48 58 301 60 96, 301 91 51),
e-mail: biuro@pttk-gdansk.pl
鉄道中央駅内

ポーランド鉄道案内所
電話9436、www.pkp.pl

三都市交通会社・案内所
電話+48 58 628 51 70

グダニスク交通会社・案内所
電話+48 58 341 71 50, 341 32 46
www.zkm.pl

<緊急電話番号>
消防署 998
警察 997
救急病院 999
市警察 986



GDAŃSK

www.gdansk.pl

発行元: グダニスク促進局
グダニスク市役所
Nowe Ogrody 8-12,
80-803 Gdansk
電話+48-58-3237110
e-mail: umg@gdansk.gda.pl

翻訳: Boguslaw&Kazuko Pindur

撮影: S.Skladanowski, M.Zak, A.Firynowicz, K.Gollnau,
W.Wegrzyn, D.Kula, S.J.Michalak, Kosycarz Foto Press, グダ
ニスク市促進局

資料と写真をご提供いただきましたMichalak氏、Myrta氏、
グダニスク歴史博物館、グダニスク国立博物館、連帯センター財団、科
学協会図書室とTESSA出版の皆様へ深く感謝致します。



グダニスクの見所



GDAŃSK

www.gdansk.pl



グダニスク

グダニスク市の旧市街に聳え立つヨーロッパで最も美しい煉瓦造りの教会でゴシック様式の「聖マリア教会」、ルネサンス様式の民家が建ち並んでいる長い広場の「ドゥーギ・タルグ」にある「ネプチューンの噴水の銅像」、モトゥワバ川沿いにある中世の木造クレーン「ジュラフ」、これらはグダニスク市の名所でその象徴になっています。

また千年の歴史を持つグダニスク市はバルト海沿岸にあるポーランド最大の観光名所としても有名で、ヘベリウシュ、ショベンハウエル、フアーレンハイツ、グラスそしてワレサの故郷でもあり、ここに見られる町人文化、宗教や軍事や港に関連する多くの文化遺産、荒々しい歴史や興味深い文化などに関心を抱かずにはいられないでしょう。

この地は歴史と現代が素晴らしいハーモニーを生み出し、他には見られない風景と独特な雰囲気を持っているのです。



ポーランド

グダニスク

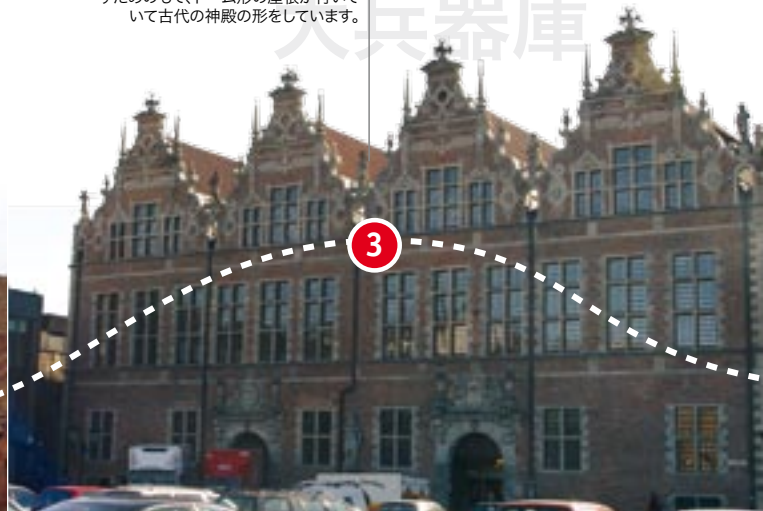
王の道

ポーランド王はよくグダニスクを訪問しました。1552年7月8日にはジグムント・アウグスト王とその2000人の行列が訪問し、1677年8月1日にはヤン3世ソビェスキ王とマリシェニカ王妃とヤクブ王子もグダニスクを訪問したそうです。



大兵器庫

「大兵器庫」の前にある取り出し口は、大兵器庫の地下から大砲の弾を出すためのもので、ドーム形の屋根が付いています。古代の神殿の形をしています。



高い門(ブラマ・ビジーナ)(1)

様々な装飾が豊富に彫刻されているこの16世紀の石の門から、グダニスクの王の道が始まりました。またグダニスクを訪れる貴族たちを歓迎する町人以外に、そこに刻まれた“ポーランド、ポーランドに臣従したプロセイン公国、グダニスクのそれぞれの紋章”と“正義と敬神はあらゆる王国における二本の柱である”という標語が出迎えました。

ドウガ通りの門の前(2)

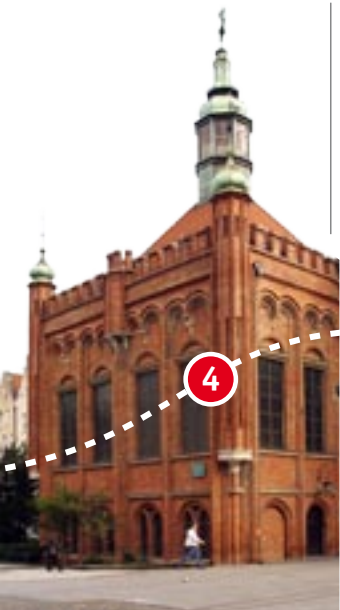
ゴシック・ルネサンス様式の門の前にある複合された建築物はまるで中世の城壁の一部に見えますが、実は…忠告かつ見せしめに懲罰が執行された晒し台の跡がある「拷問屋の家」、そして17-19世紀に街の刑務所があった「牢屋の櫓」から成っています。またこの拷問された囚人の喚き声をまだ覚えているかのような牢屋には、近いうちに“グダニスクの金”と呼ばれている琥珀博物館の高価なコレクションが展示されるようになります。



大兵器庫 (ビェリカ・ズボロヨブニャ)(3)

堂々と聳え立ち数多くの装飾が施されている「大兵器庫」の建物は、グダニスク市にあるオランダのマニエリスムの最も立派な例と言えるでしょう。ベングロビ市場(石炭市場)そしてトカツカ通りの2つの正面に見られる同類の技巧的様式は、その構成と装飾の美しさで魅力に溢れています。その高貴な室内に昔は大砲と玉とあらゆる種類の武器がたくさん仕舞ってありましたが、現在その一階にはショッピングセンターと上階には美術大学があります。





聖ジョージ団体の館(4)

中世グダニスクで最も古い聖ジョージ団体は大弓団体であり、元々は「アルトワールの館」で会合を持っていました。後期ゴシック様式のその館(別名“射撃場”)は、当時流行していたオランダ様式の建物として、金の門の近くで1487-1494年に建設されました。

ウプハゲンの家

1911年の11月1日にその親戚から借用して、ドゥウガ通り2番にある旧ウプハゲンの家に“民家内装博物館”が創立されました。その博物館は1945年までグダニスク市博物館の別館として活動を続けました。

ウプハゲンの家

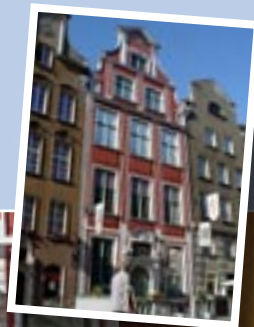


金の門 (ズオタ・ブラマ)(5)

17世紀初頭に造られ建物二階分の高さのあるアーチ型の素晴らしい「勝利の門」は、街の代表的な通りであるドゥウガ通りに繋がり、その門を潜り王の行列はグダニスク市内に入って行きました。門の最上部の壁にはグダニスク市民が伝統的に評価していた“平和・自由・裕福・名声・調和・正義・敬神と賢明さ”を象徴する彫刻が施されています。ドゥウガ通りには権力のある金持ちの町人たちが住んでいたそうです。現在人気のある散歩コースは、豪華さとオリジナリティー溢れる装飾で競い合う印象的な貴族屋敷の正面に沿っています。

ウプハゲンの家 (ドム・ウプハゲナ) (6)

ドゥウガ通りにあるロココ・クラシック様式の民家は、過去にウプハゲンという名の知れた市会議員で審判員の家でしたが、現在は昔の町人住宅の豪華な内装とその造りを見学できる“民家内装博物館”になっています。慎重に復元された玄関、大きな食堂と小さな食堂、音楽室と調理場を歩くと18世紀の雰囲気味わえます。



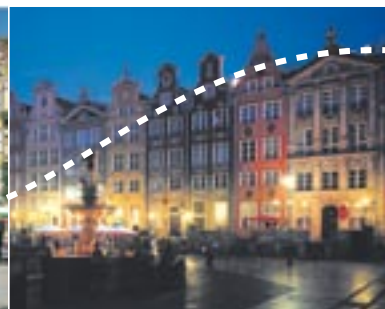
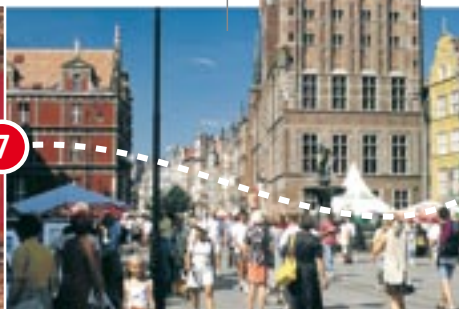
主体となった町の市庁舎

1556年10月3日にその市庁舎と塔は火事によって崩壊しました。そして復元後にその内装はルネサンス様式に変わり、1561年にはジグムント・アウグスト2世の銅像のある屋根になり、塔には新しい時計と14個の鐘からできたカリヨンが設置されました。

 MUZEUM HISTORYCZNE MIASTA GDAŃSKA



7



ネプチューンの噴水

ネプチューンの噴水

1633年10月9日に「アルトゥールの館」の前にあるネプチューンの噴水から初めて水が噴き出し、現在も春から秋まで市議会によって設定された時間帯に流れています。



8

主体となった町の市庁舎（ラトゥシ・グウブネゴ・ミヤスタ）（7）

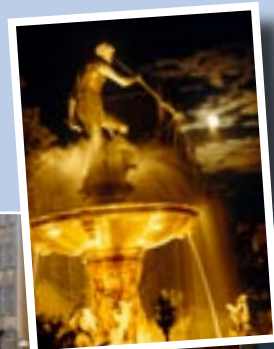
昔のグダニスクの権力者の所在地であり13世紀の建設後も度々改築されたその建物は、オランダのマニエリスム様式の立派な内装や建築によってグダニスクの豊かさと地位を誇示していました。

その中でも一番見事な“市議会の大広間”（別名“赤の間”）は、市庁舎建築の中でも近代の最も美しい部屋として評価されているものです。またイザーク・デン・ブロケ作の象徴的な意味を持つ25の絵画が天井の装飾になっていて、その中で最も有名な作品は“グダニスクの賛歌”です。

その塔からは17世紀のカリヨンの復元である楽器での音楽が流れ、市庁舎の中にはグダニスク市歴史博物館があります。

ネプチューンの噴水（8）

「ドウギ・タルグ」にある17世紀の「ネプチューンの噴水」は、昔海運で栄えたグダニスクの守護神かつ街のシンボルであり、最も美しい広場のロマンチックな飾りにもなっています。ところでグダニスクの伝説の一つによると、ネプチューンはグダニスクの有名なリキュールであるゴールド・バツサー（金水）を作り出すのに多に貢献したそうです。つまり噴水に金貨を投げ入れられるのが気に入らなくて、水を三叉の戟で叩き金貨を金箔にしてしまったのです。その時からその金箔の輝きが美味しい薬草リキュールを一層美しくしたということです。



アルトゥールの館

アルトゥールの館

1742年11月23日「アルトゥールの館」に麦取引所ができ、それは1920年まで存在していました。



アルトゥールの館 (9)

グダニスクの金持ちの商人や職人のいわゆる同業者組合の代表的な本部であった建物で、それは伝説のアーサー王のアイデアにも関連があります。またグダニスクの文化と商業の重要な中心であり、その象徴にはグダニスクの紋章を持つライオンとメルクリウス、正義と力が擬人化されたもの、そして寛大な運命の女神があります。また内装にある多くの絵画、船の模型、鎧、そしてタイルには当時のヨーロッパの権力者や紋章が描かれ、その中でも惑星と徳行の擬人化が描かれている世界最大(高さ10メートル以上)のルネサンス様式の壁暖炉は見所と言えるでしょう。



新・ギルド会館

1901年11月16日にドゥウギ・タルグ通り3番の「新・ギルド会館」の一階で「グダニスクの玄関」という展示会が開かれました。そこで展示されていたのは200点以上で、ギェウジニスキ・レツェセルに寄付されたものです。



新・ギルド会館(10)

「アルトゥールの館」の近くには「新・ギルド会館」があります。その中にある玄関にはグダニスクやオランダの作品が揃っていて、典型的なグダニクス商人のパロック様式のサロンになっています。またその窓からは毎日13時に美しい娘ヘドビガが外を眺めていたそうです。実は彼女は1891年にヤドビガ・ウシュチェフスカ(デオチマ)によって書かれた小説「窓の娘」の主人公で、伯父によってその部屋に閉じ込められていたのです。その小説は各世代のポーランド人に読まれているので、人々がグダニスクを訪れる時にはその窓やその美人の娘を捜すのだそうです。



金の民家

金の民家

「金の民家」の正面飾りはイタリアに発注されましたが、グダニスクに向かっていた途中で船と一緒に沈没したため、裏面飾りが正面に利用されたのだそうです。



金の民家 (11)

もう一つ有名で美しいグダニスクの建物が、「ドゥウギ・タルグ」にあります。それは17世紀にアブラハム・ブロークによって設計され、元市長で文化のスポンサーかつ裕福な商人でもあった、ヤン・シュペイマンとその妻でパール家出身のユディタのために建設されたものです。また伝説によると建物の中をユディタの幽霊がさまい「正義をもって振舞えば恐れるものなし」と囁いているそうです。



緑の門

代表的な「緑の門」が建設される前に、その場所にはグダニスクで最も古い「コガの門」がありました。また1880年9月17日には「緑の門」の内で西ポモージェ博物館が活動を始めました。

緑の門



緑の門 (12)

マニエリスム様式の門で、1568-1571年にアムステルダムからのレグニエードレスデンのハンス・クラメルによってグダニスクを訪問する王たちの宿泊施設として建設されました。しかしそれは1646年にマリア・ルチジカ・ゴンザガがフランスからプワティスワフ4世との結婚式に向かう時にしか利用されませんでした。しかし現在は国立博物館の別館として多くの展示会の会場となり、またノーベル平和賞受賞者でありポーランド共和国の元大統領であったレフ・ワレサの事務所もその中にあります。

聖マリア教会

1502年7月28日に1343年から続いたグダニスクの「聖マリア教会」の建設工事が終わりました。その興味深いものの中には素晴らしい天文時計があり、1464から1470年にハンス・チリングゲルによって創られたものです。それは時間・日付・祭日そして月の位相を表し、お昼に東方の三博士・十二使徒そしてアダムとイブと死神が現れます。

聖マリア教会



聖マリア教会 (13)

150年に亘って建設されヨーロッパ最大の煉瓦作りの教会である「聖マリア教会」には、美しい天井のあるゴシック様式の内装や、中世とバロック様式の数多くの素晴らしい美術品などが保護されています。例えばアウグスブルグ出身のミハウ・シュバルツ作の豪華な祭壇、およそ1410年頃から人々を感動し続けてきた石造りのピエタ（嘆きの聖母像）、ハンス・メムリング作の3枚続きの祭壇画である“最後の審判”の複製、そして有名な時計などがあります。またそこにあるそのバロック様式の素晴らしいパイプオルガンは、教会の苦行の壁に反響して一段と強まり厳格に聴こえます。

ところで高さ82メートルに聳え立つこの堂々とした鐘のある教会の尖塔からは街のパノラマが見渡せますが、そこまでは400段も階段を上らなければなりません。また隣接しているヤン3世ソビエスキ王の寄付に



聖マリア通り

聖マリア通り

魅力的な「聖マリア通り」はしばしば映画の撮影ロケに使われています。例えばトマス・マンの映画“ブッデンブロッグ”の撮影もここで行われました。



よって建設された、ユニークな正面を持ち3つの円蓋のあるバロック様式の「王の礼拝堂」(14)も美しいものです。

聖マリア通り

数百年前からアーティストたちを魅了し続けている、ロマンチックで雰囲気のある静かな通りです。マリアの門がある「聖マリア教会」からドゥウギ海岸まで繋がる小道はグダニスクの昔の街づくりの素晴らしい例であり、そこに見られる建物は金持ちの商人と金細工師のもので、その特徴は狭く正面に豊富な装飾が施されています。現在この通りには宝石専門店やユニークな琥珀細工の店が集中し、数百年に亘ってグダニスクが世界の中心となっている琥珀細工の伝統を大切にしています。



聖ニコワイ教会

1813年10月10日にロシアの大砲による攻撃によって、聖ニコワイ教会付属のドミニコ会の修道院が焼け落ちてしまいました。その後は瓦礫が片付けられ、軍の訓練広場そして市場(ドミニカニスキ広場)になりました。

聖ニコワイ教会



15

聖ニコワイ教会 (15)

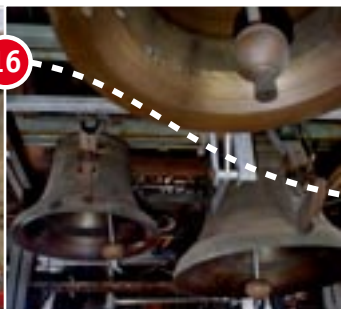
グダニスクにある最古のこの教会の歴史は12世紀にも遡り、また強運にも多くの戦争で破壊されずに残っています。ゴシック様式の三つ身廊のある教会の特に17世紀の豪華で趣向のある内装は素晴らしいもので、後期バロック様式のパイプオルガンも見所となっています。ところで昔からその教会はシフェントペウク王子によってグダニスクに呼ばれたドミニコ会の所有物になっています。また1260年にローマ法王アレクサンダー4世がドミニコ会に免償の特権を与えたことから、現在まで開催されヨーロッパでも有名なドミニカニスキ祭の伝統が始まりました。



聖カタジナ教会

聖カタジナ教会

1738年11月30日に「聖カタジナ教会」の塔にオランダ製の37個の鐘のカリヨンが鳴り始めましたが、1905年7月3日には焼失し、その後1989年にはそのレプリカが元の場所に作られました。毎年開催されている「グダニスク・カリヨン・フェスティバル」の時には、全ヨーロッパからの演奏家の素晴らしい演奏を聴くことができます。



16

聖カタジナ教会 (16)

旧市街で最古のこの教会の歴史は13世紀に遡り、その中にあるアントン・メーラーそしてイザーク・ブローケーの絵が見所と言えるでしょう。また有名な天文学者ヤン・ヘベリユスの墓石があり、高さ76メートルの塔にある16世紀の楽器であるカリヨンの複製品の展示や“街の王冠”と呼ばれている美しい兜の評判は遠方にまで伝わり関心を集めています。ところでこの教会の近くにはもう一人の聖人を称える場所があります。それは14世紀末から15世紀初頭に建てられた聖ブリギダ教会(17)で、1980年8月の反共産主義労働者のストライキの時にその反対運動家の集会や隠処の場になり歴史に名が残りました。現在そこには素晴らしい琥珀の祭壇を建設中です。その他グダニスクのゴシック様式の教会の見学には、聖ヤン教会(18)、聖エルジビェタ教会(19)、

聖ユーゼフ教会(20)、聖ピオトルとパベウ教会(21)そして三つ身廊のフランシスコ会の聖三位一体教会(22)をお勧めします。

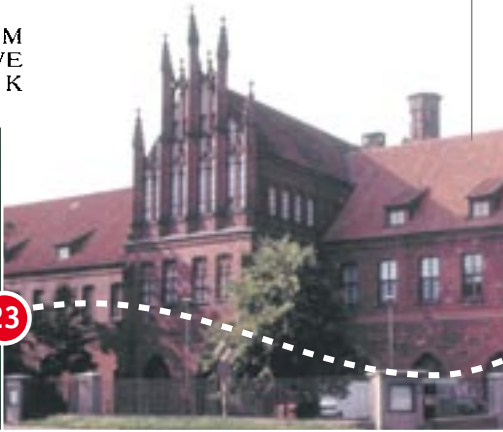


国立博物館

有名なグダニスクの家具は昔から街に多くの買手を呼び寄せていました。またその家具職人たちはオランダの家具作りの伝統に基づきながら独自のグダニスク・スタイルを生み出しました。グダニスクの職人たちは最も優れた種類の木材から、机・事務机・ベッド・洋服ダンス・食器棚・時計の台、そして豪華な彫刻を施した家具のセット、壁板、そして素晴らしい螺旋階段を作っていました。元々このような家具は王宮の装飾品であり、「国立博物館」の古代美術コレクションには多くのグダニスク家具があります。



23



国立博物館 (23)

「聖三位一体教会」の隣にある旧フランシスコ会のゴシック様式の建物は改装され、現在では「国立博物館」の「古典美術のコレクション」を所有し、オランダ・ポーランドそしてグダニスクの絵画、グダニスクと北欧の家具、セラミックス、金・錫・鉄の製品がたくさん展示してあります。しかし最も知られているのは、ハンス・メムリング作の「最後の審判」の3枚続きの祭壇画でしょう。その作品はアーティストの最高傑作として評価されていますが、15世紀グダニスクの海賊パウル・ベネケ船長によって盗まれ、「聖マリア教会」に寄付されました。また「国立博物館」のコレクションを大修道院長宮殿そしてオリバ市の大修道院長麦倉庫でも楽しむことができます。



24



旧市庁舎

最初の「旧市庁舎」は既に1382年に存在し、現在の建物は1587から1595年に同じ場所に建設されました。

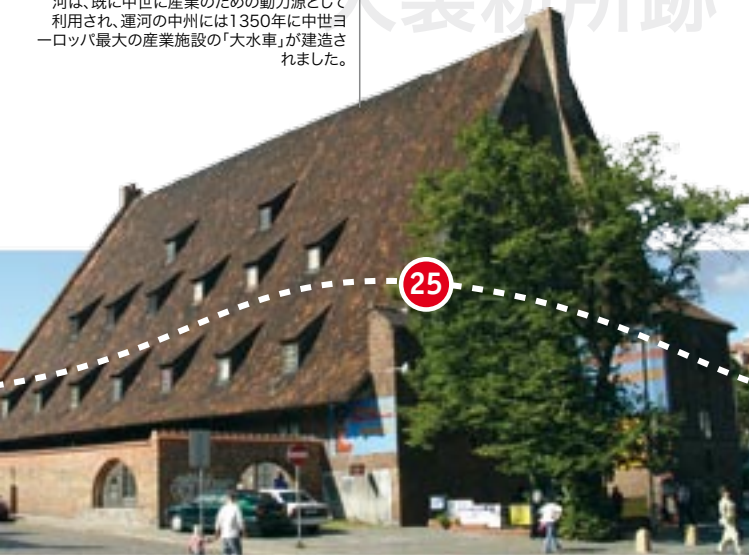
旧市庁舎 (24)

魅力的でこじんまりとしたレンガ作りの建物で高い塔がある、それはグダニスクの建築物の中で最もオランダ的なマニエリスム様式の例と言えるでしょう。歴史的にグダニスクには夫々異なった2つの政権があり、そのために市庁舎も2ヶ所あり、それらを思い起こさせる建物です。「旧市庁舎」には議会議員で有名な天文学者そしてビール醸造者であったヤン・ヘベリウスが仕事をしていました。その興味深い部屋と17世紀の絵が描いてある素晴らしい天井、美しい螺旋階段、石造りの正面の装飾の「笑顔の徳と弱点を擬人化した顔」は有名で見所となっています。また現在ここにはバルト海文化センター・グダニスクがあります。



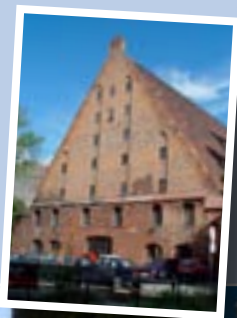
大製粉所跡

グダニスクの旧市街を流れるラドゥニヤ運河は、既に中世に産業のための動力源として利用され、運河の中州には1350年に中世ヨーロッパ最大の産業施設の「大水車」が建造されました。



大製粉所跡(25)

中世の建築技術が見られる興味深い建物で、巨大な三角屋根が特徴と言えるでしょう。旧市街のラドゥニヤ運河に建設されたものは、その当時のヨーロッパで産業企画されたものとして最大規模を誇り、水車を使った製粉機が稼動し麦倉庫やパン屋もありました。現在そのゴシック様式の建物は商業センターになっていて、大きな水車の羽根車も見ることができます。



ジュラフ

「ジュラフ(鶴)」と呼ばれているクレーンは人力が動力源で木造の歯車を動かしていましたが、上のクレーンは高さ27メートルに2トンの物を持ち上げ、上下のクレーンを合わせると高さ11メートルに4トンを持ち上げることが可能でした。

ジュラフ



ジュラフ(鶴と言う名のクレーン)(26)

モツワバ川添いにある「ジュラフ」とは、グダニスクで最も特徴のある中世ヨーロッパ最大の港にあったクレーンのことです。船の積み降ろしとして船にマストを立てるために使われ、また同時に街のユニークな門でもありました。その中には足力を原動力として動いた歯車が復元されていて、そのメカニズムで今でも稼動することができます。その堂々としたクレーンは現在は港の建築物の例として、また「海運中央博物館」(27)の大きなコレクションを展示するための適当な場所にもなっています。その博物館の本館は川の反対側にあるオウオピヤンカにある麦倉庫にあります。



灯台

「灯台」では“時の玉”という珍しい道具が使われていました。そしてその玉を正午に持ち上げまた降ろすことによって時間を報せ、船長たちはそのお陰で時刻を合わせることができました。

灯台



灯台(28)

新港にある灯台もグダニスクの典型的な建造物です。19世紀末に建築されたバルト海沿いの最も美しい灯台の一つである「グダニスク灯台」は舵手の目標となっていますが、現在その中には古い工学器具も展示されています。またその上階からはグダニスク湾と港のパノラマ、そしてビスオウシチェ要塞にある古い灯台も見渡せます。



ビスオウシチェ要塞

グロジスコ要塞

「グロジスコ要塞」の敷地内の20ヘクタールを利用し、ポモジェ地方の学問および技術紹介センターを建設中です。



ビスオウシチェ要塞(29)

軍事建築の世界最大の遺産の一つであるこの要塞の歴史は15世紀に遡ります。幾度も増築され戦略的で広大なこの要塞は、長年に亘ってポーランドを守り続けてきました。例えば1627年にこの要塞を出発したポーランドの船団はスウェーデンの船団と戦ってオリバ付近で勝利を収め、戻った時は祝砲の音と白鷲の旗で大歓迎を受けたそうです。このように昔からポーランドの歴史においても非常に重要な要塞でした。



グロジスコ要塞

グロジスコ要塞

「グロジスコ要塞」の敷地内の20ヘクタールを利用し、ポモジェ地方の学問および技術紹介センターを建設中です。



グロジスコ要塞(30)

その歴史は17世紀に遡り、グダニスク要塞文化パークに位置するこの「グロジスコ要塞」(軍事建築の複合体)も、グダニスク市の歴史において重要な役割を果たしてきました。この要塞のお陰で18世紀にグダニスクがロシア軍に包囲された時にロシア軍を敗ることができました。またその強化については1807年のナポレオン軍の攻撃に関係があり、その時のナポレオン自身の「グダニスクは全ての鍵である」という意見から、この要塞の近代化と砲列の建設は重視され実現されました。

ミレニアム十字架(31)

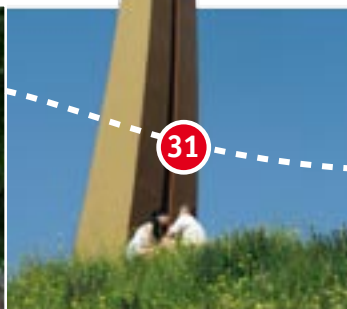
「グロジスコ要塞」のエルサレム砦にはグダニスクの海からも判る大きな十字架が建設されましたが、それはキリスト教2000周年を記念し、また1997年に行なわれたグダニスク史1000周年と聖ポイチェフによって街が洗礼された1000周年についても同様に記念するものです。



“存在しない墓”の記念碑

“存在しない墓”の記念碑

グダニスク市は数百年に亘ってある種の共和国であり、色々な民族・文化・宗教と言葉が調和し共存していたと言えるでしょう。またここにはポーランド人・ドイツ人・オランダ人・スコットランド人・ユダヤ人・イギリス人、そしてカトリックとプロテスタントとユダヤ教などの信者が住んでいましたが、グダニスクは寛容な街であり、それらの違いを独自のユニークな雰囲気に変えていました。「存在しない墓」の記念碑は、現代の世代からグダニスクの歴史を作り出した世代への“尊重と存続”の証です。



“存在しない墓”の記念碑(32)

特別な意味を表し意味深い形をしている、様々な戦争で破壊された「存在しない墓」の記念碑は、グダニスクで生活しなくなった様々な宗教や民族の人たちの記憶を賛するために創られました。それは、象徴的に木と割れている木を思わせる石柱そして古い墓石に支えられている祭壇から成り立っていて、神殿を連想させられます。

ポーランド郵便局防衛者の記念碑(34)

「ポーランド郵便局防衛者の記念碑」は、「勝利の女神ニケ」に鉄砲を手渡す怪我をした郵便配達人を印象的に表現しています。



ベステルプラッテ防衛者の記念碑

ドイツ軍の司令官たちは「ベステルプラッテの占領は簡単である」と確信していましたが、僅かなポーランド軍の衛兵隊員たちは一週間もその狭い基地を守り続けました。そして敵軍はそれを尊重し、降伏するヘンリク・スハルスキ少佐に名誉を与えました。



ポーランド郵便局の建物(33)

1844年に建てられた軍の病院は、1925年からは自由都市グダニスクでのポーランド郵便局の本部となり、また1939年の9月にはナチス・ドイツがポーランドを攻撃した戦いで歴史に名を残した場所でもあります。現在建物には「ポーランド郵便局博物館」があり、グダニスクでの郵便の歴史や1939年の英雄の戦いに関する品物や資料が展示されています。またその近くには力強い「ポーランド郵便局防衛者の記念碑」(34)があります。

ベステルプラッテ防衛者の記念碑(35)

1939年9月1日午前4時45分にナチス・ドイツの戦艦シュレツピク・ホルシュタインからの発射によって第二次世界大戦の火蓋が切られて落とされました。しかしヘンリク・スハルスキ少佐を始めとする僅か182名のポーランド軍防衛隊によるベステルプラッテでの勇敢な戦は、ポーランド国民にとってナチス・ドイツへの「抵抗の象徴」になりました。そのグダニスクの防衛隊を記念した港口の横にある緑の丘に聳え立つ石造のモニュメントは、土に柄を埋め込んだ剣の形をしています。またその戦いに関する資料は「第一衛兵所」にあります。



犠牲になった造船所労働者の記念碑

20世紀80年代に「犠牲になった造船労働者の記念碑」の前で、警察に弾圧された「連帯労働組合」のデモが行われていました。



犠牲になった造船所労働者の記念碑(36)

希望の象徴で錨のある大きな三つの十字架は「1970年12月の労働者ストライキの記念碑」で、それは1980年8月にストライキをしていたグダニスク造船所の労働者側要求の一つであり造船所の正門前に建造されました。また労働者たちが自ら造ったというその十字架は、高さが42メートルで重さは140トンもあり、その記念碑の前にはグダニスクを訪れる使節団が献花しています。

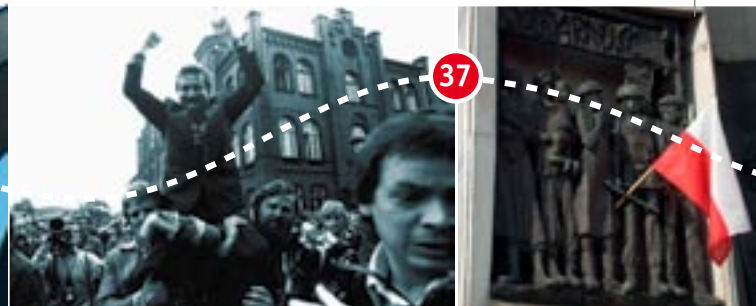


連帯博物館

SOLIDARNOŚĆ

連帯博物館

2003年10月16日グダニスク造船所のストライキの時に書かれた「21の要求の板」がユネスコの「世界の記憶」のリストに登録されました。



連帯博物館(37)

“自由への道”というマルチメディアの展示会は、造船所の歴史的な“安全第一教室”で行なわれています。「犠牲になった造船所労働者たち記念碑」の近くでは、近年25年間における“ポーランド人の自由と正義のための戦いの歴史”の紹介、また有名な手書きの“1980年8月の21の要求”の合板も展示されています。それらは社会的そして人的な資料として特別な意味を持ち、またヨーロッパの歴史に大きな影響を齎したものと、国連のユネスコによって“世界の記憶”のリストに登録されています。このことによって崩壊したベルリンの壁やワレサ議長が乗り越えた造船所の壁が、中央ヨーロッパにおける自由への道に繋がったことを忘れさせることはないでしょう。



オリバ大聖堂

オリバ大聖堂

「オリバの大修道院長宮殿」は国立博物館の現代アート局本館になっていて、常設のポーランド美術展では1945年より後のポーランド美術作品を紹介しています。現在そのコレクションにはポーランドの最も優れたアーティストの作品が300点あります。



オリバ大聖堂(38)

オリバは静かで魅力的なグダニスクにある地区で、3つ子の都市のある景観公園の緑に囲まれ、アレクサンデル・フンボルトという有名な旅行者はそのオリバを“世界で三番目に美しい場所”と褒め称えました。そして造園家で有名であったアンドレ・ラ・ノトレによって18世紀から19世紀初めに設計されたその公園は、フランス風庭園とイギリス風庭園から成り立っています。またクラシェフスキというポーランド人作家はホームビームの並木通りについて書いていますが、それ以外にも1920年に完成したアルプスの植物園、温室、洞窟、滝も見所で、背の高い古木や珍しい植物の間を散策しながら「オリバ大聖堂」まで辿り着くことができます。「オリバ大聖堂」は13世紀にシトー会の教会として建設された

三つ身廊のある十字形のごシック様式の教会で、それはポーランドで最も長く107メートルあります。その美しい内部には多くの美術品が保管され、バロック様式の中央祭壇とその横にある20の祭壇、ロココ様式の演台、座席の端に見られる素晴らしい装飾、そしてシート会のスポンサーたちのルネサンス様式の肖像画などがあります。大聖堂の最大の装飾品は、ヤン・ブルフとフリデリク・ルドルフ・ダリッツによって創られたロココ様式の有名なパイプオルガンで、その特徴はある種独特な反響音が聴けること、星・トランペットそして天使のベルの装飾が演奏中に動き出すことです。



主な文化イベント



主な文化イベント

グダニスク音楽の夏 (7-8月)

クラシック音楽コンサートの一連が開催され、モツワ川の美しい景色の中で世界の有名なアーティストたちの演奏が楽しめます。

オリバ大聖堂におけるパイプオルガン国際フェスティバル (7-8月)

パイプオルガンの新旧の音楽作品が、世界中の音楽家によって演奏されます。

パイプオルガン・合唱団そして室内音楽国際フェスティバル (7-8月)

毎週の金曜日には、パイプオルガン・合唱団そして室内音楽・ソリストとオーケストラによる演奏が素晴らしい「聖マリア教会」で開催されています。

野外劇場FETA国際フェスティバル (7月の半ば)

色々な規模の演劇がグダニスク旧市街内で開催されています。

“Baltic Sail”国際帆船集会 (7月の半ば)

国際的な帆船祭りが歴史のあるグダニスクの中心で開催されていて、ヨット競争や帆船パレードや歌を楽しめます。

グダニスクのカリヨン・フェスティバル (7-8月)

バロック時代から現代までのカリヨンの豊富な曲を楽しめます。

シェークスピア・フェスティバル (8月上旬)

シェークスピアの最も趣向のある国際劇を楽しめます。

聖ドミニコ市場 (8月)

その歴史は13世紀に遡るグダニスクのお祭りであり、多くの文化イベントも開催されています。

グダニスクの文化イベントと宿泊先については www.gdansk.pl をご覧ください。



グダニスク中心

- 1 高い門 (ブラマ・ビジーナ)
- 2 ドゥウガ通りの門の前
- 3 大兵器庫 (ビェリカ・ズボロブニヤ)
- 4 聖ジョージ団体の館
- 5 金の門 (ズオタ・ブラマ)
- 6 ウフハゲンの家 (ドム・ウフハゲナ)
- 7 主体となった町の市庁舎 (ラトゥシ・グウブネゴ・ミヤスタ)
- 8 ネプチューンの噴水
- 9 アルトゥールの館
- 10 新・ギルド会館
- 11 金の民家
- 12 緑の門
- 13 聖マリア教会
- 14 「王の礼拝堂」
- 15 聖ミコワイ教会
- 16 聖カタジナ教会
- 17 聖ブリギダ教会
- 18 聖ヤン教会
- 19 聖エルジビェタ教会
- 20 聖ユーゼフ教会
- 21 聖ピオトルとパベウ教会
- 22 聖三位一体教会
- 23 国立博物館
- 24 旧市庁舎
- 25 大製粉所跡
- 26 ジュラフ (鶴と言う名のクレーン)
- 27 「海運中央博物館」
- 28 灯台
- 29 ビスオウシチェ要塞
- 30 グロジスコ要塞
- 31 ミレニウム十字架
- 32 “存在しない墓”の記念碑
- 33 ポーランド郵便局の建物
- 34 「ポーランド郵便局防衛者の記念碑」
- 35 ベステルプラッテ防衛者の記念碑
- 36 犠牲になった造船所労働者の記念碑
- 37 連帯博物館
- 38 オリバ大聖堂
- 39 オリバの大修道院長宮殿

